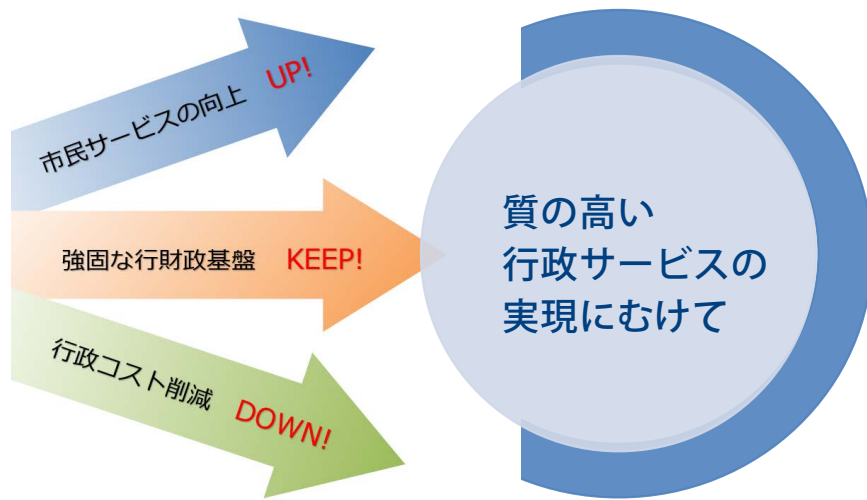


都 留 市

行財政改革推進プラン

(中期プラン)

【令和4年度達成状況把握シート】



【計画期間：令和元年度～令和4年度】



山梨県都留市

このプランについて

本プランは、第6次都留市長期総合計画における、行財政分野「実行します！新しいステージへ」に基づき、行財政改革を強力に推進するため、政策、施策に基づく推進項目を定め、具体的な取り組みやスケジュールを明らかにしたものです。

プランの目標

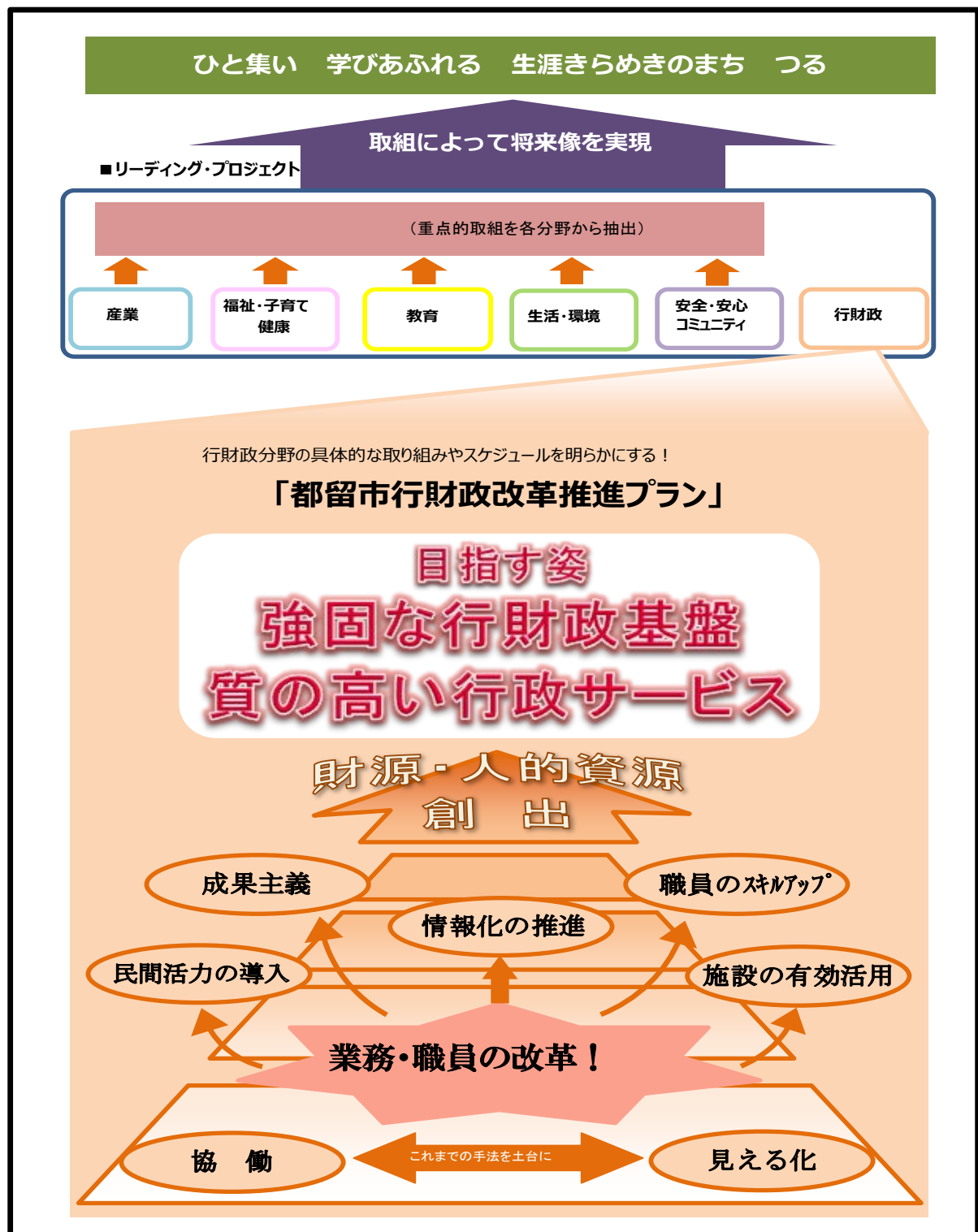
行政が保有する知的・人的資源は、市民との共有物であるという認識に立ち、今ある資源を有効に活用するとともに、企業感覚を導入した新しい経営手法などにより、安定的かつ効率的な地域経営を進め、次の世代へ引き継いでいける行財政基盤を作ります。また、時代のニーズや社会の変化に柔軟かつ迅速に対応する組織づくりと新たな行政課題を解決していく創造力と行動力を備えた職員の育成に取り組み、質の高い行政組織を目指します。

プラン推進方法について

本計画を「都留市行財政改革推進本部」を中心に全庁的な体制で推進し、財源・人的資源を創出することで、目標としている「強固な行財政基盤」「質の高い行政サービス」を実現します。

- (1) 実施項目ごとに、担当課が関係各課と連携する中で、数値目標若しくは実施目標（KPI）を定め、その目標に到達するための詳細な年度別計画を立てたうえで、事業に取り組み、その進捗状況の確認及び見直しを実施します。
- (2) 社会情勢やニーズを踏まえたうえで、推進項目の追加・中止も可能とします。また進捗状況の指標を設け、明確な判断基準を定めることにより、事業の進捗状況を正確に把握するものとします。
- (3) 進捗管理については、毎年度、各担当部局等に対し、取組状況などを照会し、年度末の「都留市行財政改革推進本部」会議において、担当課長より実施項目に係る取組状況及び進捗状況を報告し、市長の指示を受けるものとします。
- (4) 指標や進捗状況を正確に把握し、成果の検証とその結果について、長期総合計画実施計画や分野別の個別計画などと整合を図り、予算編成や組織改編に活用するものとします。

■ 行財政改革推進プラン概念図



取組 番号	担当課	関係課	実施項目	R4 総合評価	
1	企画課	全課	行政評価によるPDCAサイクルの推進	80	A
2	税務課	市民課	自主財源確保のための市税徴収率向上	65	B
3	税務課		電子申告の促進	100	A
4	企画課	全課	ふるさと納税の拡充に向けた返礼品等の充実とその周知	100	A
5	企画課	全課	ふるさと納税を活用したクラウドファンディングの推進	75	B
6	企画課	全課	企業版ふるさと納税(まち・ひと・しごと創生寄附)の活用	100	A
7	企画課	全課	公共サービスの民間委託の推進	75	B
8	財務課	指定管理者施設所管課	指定管理者モニタリング制度の導入	83	A
9	企画課	全課	官民連携による無償コンテンツの拡大	50	C
10	財務課		統一的な基準による新地方公会計制度の活用	83	A
11	上下水道課		公営企業会計の導入及び活用(簡水・下水)	100	A
12	市立病院 総務企画課		市立病院の経営改善	63	B
13	介護老人保健施設「つる」		介護老人保健施設「つる」の経営改善	90	A
14	会計課	財務課	基金の効率的運用	100	A
15	企画課	市民課、税務課	証明書コンビニ等交付による市民利便性の向上	100	A
16	企画課	全課	窓口業務における支払のキャッシュレス化	100	A
17	建設課	施設所管課	アプリを活用した道路・公園等における不具合箇所の通報方法の創出	75	B
18	企画課	事業課	ふるさと納税を活用した電子感謝券の導入とキャッシュレス社会への基盤形成	50	C
19	税務課		電子納税の促進及び利用拡大	100	A
20	市立病院 医事課	市立病院 総務企画課	外来診療待ち時間の縮減	83	A
21	企画課	全課	AI・RPA等を活用した業務効率化	75	B
22	企画課	全課	自治体クラウド等の導入による行政サービスの効率化	100	A
23	企画課	全課	GIS(地理情報システム)の充実・活用	100	A
24	企画課	全課	マイナンバーカードの取得促進に係る取組の推進	50	C
25	企画課	全課	マイナンバーの独自利用・多目的利用	100	A
26	企画課	全課	情報セキュリティポリシーの運用	100	A
27	総務課	全課	人事評価制度の活用推進	90	A
28	総務課	全課	会計年度任用職員制度への適切な対応	75	B
29	総務課		新規採用職員の確保	67	B
30	総務課	全課	勤務時間の削減	80	A
31	総務課		職員研修計画の策定	88	A
32	総務課		防災・減災に対する職員の育成	100	A
33	消防課		住宅用火災警報器の普及設置拡大事業	88	A
34	総務課	全課	CATVによる積極的な情報提供	100	A
35	学校教育課		学校の教育力の向上に向けた給食費公会計化の推進	100	A
36	学校教育課	健康子育て課	不登校児童生徒等の社会的自立に向けた支援の充実	83	A
37	選挙管理委員会		期日前投票所の増設による利便性の向上	75	B
38	選挙管理委員会		投票区の再編成による効率化	67	B
39	企画課	施設所管課	公共施設個別施設計画の策定	100	A
40	建設課		市営住宅の有効活用	67	B
41	財務課	未利用市有地所管課	市有財産の有効活用による財源確保	75	B
42	産業課		SOHO及びテレワークセンターの運用見直し	75	B
43	企画課	全課	公民連携の推進	100	A
44	財務課	全課	光熱費削減及び節電対策	8	D
45	財務課	施設所管課	公共施設の照明LED化	83	A
46	財務課	全課	備品の適正管理と効率的活用	83	A

評価について

■実績や取組内容を踏まえた目標達成度の判断基準下記のとおりです。

【内容評価(進捗度)】 各実施項目における年度別計画の取組状況の評価

A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手

【KPI評価(達成度)】 数値目標・実施目標に対する評価

A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成

【総合評価(平均値)】 内容評価・KPI評価の平均値

A:100点～76点 B:75点～51点 C:50点～26点 D:25点～1点

R4年度 総合評価集計

A	29
B	13
C	3
D	1

取組 番号	担当課	実施項目	R1	R2	R3	R4	全体平均	
1	企画課	行政評価によるPDCAサイクルの推進	88	75	63	80	76	A
2	税務課	自主財源確保のための市税徴収率向上	75	75	63	65	69	B
3	税務課	電子申告の促進	100	100	100	100	100	A
4	企画課	ふるさと納税の拡充に向けた返礼品等の充実とその周知	100	100	100	100	100	A
5	企画課	ふるさと納税を活用したクラウドファンディングの推進	50	38	100	75	66	B
6	企画課	企業版ふるさと納税(まち・ひと・しごと創生寄附)の活用	100	100	88	100	97	A
7	企画課	公共サービスの民間委託の推進	100	50	83	75	77	A
8	財務課	指定管理者モニタリング制度の導入	50	100	83	83	79	A
9	企画課	官民連携による無償コンテンツの拡大	75	63	50	50	59	B
10	財務課	統一的な基準による新地方公会計制度の活用	83	83	83	83	83	A
11	上下水道課	公営企業会計の導入及び活用(簡水・下水)	83	83	88	100	89	A
12	市立病院 総務企画課	市立病院の経営改善	90	70	63	63	71	B
13	介護老人保健施設「つる」	介護老人保健施設「つる」の経営改善	60	88	90	90	82	A
14	会計課	基金の効率的運用	67	83	100	100	88	A
15	企画課	証明書コンビニ等交付による市民利便性の向上	100	75	83	100	90	A
16	企画課	窓口業務における支払のキャッシュレス化	100	100	100	100	100	A
17	建設課	アプリを活用した道路・公園等における不具合箇所の通報方法の創出	50	100	75	75	75	B
18	企画課	ふるさと納税を活用した電子感謝券の導入とキャッシュレス社会への基盤形成	100	50	25	50	56	B
19	税務課	電子納税の促進及び利用拡大	75	75	100	100	88	A
20	市立病院 医事課	外来診療待ち時間の縮減	75	83	67	83	77	A
21	企画課	AI・RPA等を活用した業務効率化	100	50	50	75	69	B
22	企画課	自治体クラウド等の導入による行政サービスの効率化	100	67	100	100	92	A
23	企画課	GIS(地理情報システム)の充実・活用	67	67	100	100	83	A
24	企画課	マイナンバーカードの取得促進に係る取組の推進	100	67	67	50	71	B
25	企画課	マイナンバーの独自利用・多目的利用	100	83	75	100	90	A
26	企画課	情報セキュリティポリシーの運用	100	100	100	100	100	A
27	総務課	人事評価制度の活用推進	90	70	80	90	83	A
28	総務課	会計年度任用職員制度への適切な対応	88	75	75	75	78	A
29	総務課	新規採用職員の確保	67	83	67	67	71	B
30	総務課	勤務時間の削減	100	90	80	80	88	A
31	総務課	職員研修計画の策定	75	38	75	88	69	B
32	総務課	防災・減災に対する職員の育成	100	83	83	100	92	A
33	消防課	住宅用火災警報器の普及設置拡大事業	75	100	88	88	88	A
34	総務課	CATVによる積極的な情報提供	100	100	100	100	100	A
35	学校教育課	学校の教育力の向上に向けた給食費公会計化の推進	100	100	100	100	100	A
36	学校教育課	不登校児童生徒等の社会的自立に向けた支援の充実	100	83	83	83	88	A
37	選挙管理委員会	期日前投票所の増設による利便性の向上	88	75	75	75	78	A
38	選挙管理委員会	投票区の再編成による効率化	67	83	83	67	75	A
39	企画課	公共施設個別施設計画の策定	100	100	100	100	100	A
40	建設課	市営住宅の有効活用	50	50	67	67	58	B
41	財務課	市有財産の有効活用による財源確保	50	88	75	75	72	B
42	産業課	SOHO及びテレワークセンターの運用見直し	75	50	75	75	69	B
43	企画課	公民連携の推進	100	83	100	100	96	A
44	財務課	光熱費削減及び節電対策	50	70	50	8	45	C
45	財務課	公共施設の照明LED化	67	83	100	83	83	A
46	財務課	備品の適正管理と効率的活用	83	100	67	83	83	A

評価について

■実績や取組内容を踏まえた目標達成度の判断基準下記のとおりです。

【総合評価(平均値)】 内容評価・KPI評価の平均値

A:100点～76点 B:75点～51点 C:50点～26点 D:25点～1点

平均総合評価集計

A	32
B	13
C	1
D	0

・プランの内容

1	実施項目	行政評価によるPDCAサイクルの推進				継続
担当課		企画課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・事務事業評価においては、令和元年から開始する第6次都留市長期総合計画中期基本計画に対応するため、新たな評価シートを作成する必要がある、令和元年度中に今後4年間の礎となる評価手法の再検討を実施するとともに、シートについては指標等を適切に設定し、次年度予算編成の参考となるよう、より使い勝手の良いシートに改善します。 ・外部評価(事業評価・提案会)においては、本市が抱える構造的な課題が中長期的な課題となっているため、毎年度実施するのではなく、例えば、第6次都留市長期総合計画の基本計画を策定する年度の前年度に実施するなど、今後のあり方について検討していきます。 ・以上を踏まえ、それぞれの評価結果を分析・活用し、今後の方向性等の洗い出しを行う総合評価を毎年度公表します。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①事務事業評価 事務事業の改善や評価が予算・決算と連動することを目指し、毎年度実施する。			実施	→	→	→
②施策評価・政策評価 第6次都留市長期総合計画の基本計画の見直し・策定を行う年度に評価を行う。						実施
③外部評価 市が実施している事業について、学識経験者や市民など行政外部視点から評価や提言を伺う「事業評価・提案会」を実施する。			実施	→	→	→
④総合評価 「事務事業評価」「施策評価・政策評価」「外部評価」等の評価結果を分析・活用し、今後の方向性等の洗い出しを行う。			実施	→	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
行政評価事業指標の達成度(各年度の平均値)			3.7	3.9	4.1	4.3
⇒実際の達成度			3.7	3.8	3.3	3.2

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①事務事業評価	実施	第2次事務事業評価を実施した。			A
②施策評価・政策評価	実施	政策・施策評価を実施した。			A
③外部評価	実施	10月に実施した。			A
④総合評価	実施	12月に実施した			A
次年度以降の方向性	各評価を踏まえ、下半期において報告を行う。				
令和4年度目標	4.3	令和4年度実績	3.2	KPI評価	C
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	80

・プランの内容

2	実施項目	自主財源確保のための市税徴収率向上				継続
担当課		税務課	関係課	市民課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・納期内納付の促進及び滞納繰越をさせないための取り組みとして滞納者に対する財産調査と折衝を早期に着手し、現年度分の債権差押等の滞納処分を重点的に行うことで滞納繰越額を縮減させるとともに、悪質滞納者に対しては、財産調査を重点的に行い、滞納処分の強化を図る中で、市税徴収率を対前年度比で1ポイント増加させ、令和4年度までに市税徴収率98%を目標に取り組みます。 ・債権回収アドバイザー及び元国税徴収職員による技術指導については、納税折衝などの同行や職員への徴収技術の普及などへ関与してもらい、各債権の徴収率向上に積極的に努めます。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①納税折衝の効率化 滞納者に対し、財産調査の結果に基づいた納税折衝を行い、納税意思の有無を早期に判断し、滞納処分への移行をスムーズに行う。			実施	→	→	→
②差押、公売、搜索などの滞納処分 納税折衝で納税意思の希薄な者等については、財産調査を早期着手し、即時滞納処分を行う。			実施	→	→	→
③財務調査の早期実施と処分判断の早期着手 滞納者に対しての財務調査を早期に実施するとともに、執行停止を含めた処分判断を早期に行う。			実施	→	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
市税徴収率の上昇(市税徴収率/年)			96.47%	97.27%	97.97%	98.47%
⇒実際の達成度			95.89%	93.21% (96.62)	96.78%	97.28%(見込)

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①納税折衝の効率化	実施	催告・各種調査を踏まえた納税折衝を適宜実施。また、職員減による業務量増加の負担軽減を図るため、催告システムを調査中。			B
②差押、公売、搜索などの滞納処分	実施	140件以上の差押執行並びにH14以降の高額滞納者の滞納解消に努めた。また、県の公売計画に合わせ、差押不動産の公売を予定。			A
③財務調査の早期実施と処分判断の早期着手	実施	財産調査を早期に実施し、その結果を基に担当内で差押・執行停止等の滞納処分の方針を協議・決定し、執行している。			B
次年度以降の方向性	・滞納整理月間にて、現年度滞納分を重点的に、全課員による滞納整理を実施する。 ・困難案件について、案件を精査し早期解消に努める。 ・預金・給与等に加え、タイヤロック及び不動産の差押を行い、公売を含めた滞納整理を実施していく。				
令和4年度目標	98.47%	令和4年度実績	97.28%(見込)	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	62.5

・プランの内容

3	実施項目	電子申告の促進				継続
担当課		税務課	関係課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・電子申告未利用者の把握を行い、重点的に周知する方策を検討した上で実施し、国の行政コスト削減計画に基づく電子申告の推進を図ります。(「国の目標値」法人税申告:大企業100%、中小企業70%、給報・償却資産の電子申告:全国平均を上回る数値まで引き上げる。)				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①電子申告導入環境整備のための支援策 商工会などと連携する中で普及率促進の具体的な方策を検討し、検証した中で現実的な手法により実施する。			手法検討	実施	→	→
②電子申告利用者の増加策の検討 電子申告未利用者を対象に、具体的な周知方法を検討し、周知効果の高い方法により利用者の増加促進を図る。			手法検討	実施	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①法人市民税電子申告率の上昇(電子申告数/全体申告数)			73.4%	75.9%	78.4%	80.9%
⇒実際の達成度			74.5%見込	77.4%見込	81.7%	81.7(見込)
②給与支払報告書電子申告率の上昇(電子申告数/全体申告数)			35.6%	39.0%	42.3%	45.8%
⇒実際の達成度			53.6%見込	60.6%見込	66.6%	66.6(見込)
③償却資産電子申告率の上昇(電子申告数/全体申告数)			34.7%	40.0%	45.3%	50.6%
⇒実際の達成度			34.1%見込	49.2%見込	48.00%	50.6(見込)

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和3年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①電子申告導入環境整備のための支援策	実施	電子申告未実施である市内各会計事務所について、引続き導入の依頼を続けている。			A
②電子申告利用者の増加策の検討	実施	特別徴収事業者や法人市民税事業所に対し、各種通知等に併せて電子申告の利用案内を行っている。			A
次年度以降の方向性	窓口申告者への周知、案内通知や広報での周知を引続き実施していく。				
令和4年度目標①	80.9%	令和4年度実績①	81.7(見込)	KPI評価	A
令和4年度目標②	45.8%	令和4年度実績②	66.6(見込)	KPI評価	A
令和4年度目標③	50.6%	令和4年度実績③	50.6(見込)	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出)				総合点	100

・プランの内容

4	実施項目	ふるさと納税の拡充に向けた返礼品等の充実とその周知				継続
担当課		企画課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・ふるさと納税の返礼品等の開発については、寄附者のターゲット(一般向け、市内大学生の保護者向け、都留文科大学卒業生向け)別の返礼品等の開発を行い、それぞれのニーズに沿った開発を行います。また、通年ではなく、時期に応じた返礼品等の開発を行い、切れ目なく寄附者のニーズに対応していきます。 ・新たな客層も積極的に取り込み、寄附金の更なる向上を図るため、ふるさと納税ポータルサイトの主要サイト等を導入します。 ・都留市のふるさと納税のPRをするために、ふるさと納税関連のイベントへの出展や、新聞等の広告媒体を活用したPRを積極的に促進していきます。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①ふるさと納税返礼品等の開発 寄附者のターゲット別の開発及び時期に応じた返礼品等の開発を行い、切れ目なく寄附者のニーズに対応する。			随時開発	→	→	→
②ふるさと納税ポータルサイトの拡大 ふるさと納税ポータルサイト「さとふる」及び「楽天ふるさと納税」等を随時導入する。			随時導入	→	→	→
③ふるさと納税のPR ふるさと納税関連のイベントへの出展や、新聞等の広告媒体を活用したPRを行う。			随時実施	→	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①ふるさと納税返礼品種類(返礼品種類累計数)			200品	220品	240品	260品
⇒実際の達成度			310品	646品	950品	1335品
②ふるさと納税額(千円/年)			60,000千円	70,000千円	80,000千円	100,000千円
⇒実際の達成度			179,174千円	1,231,137千円	1,738,199千円	1,100,000千円

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和3年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①ふるさと納税返礼品等の開発	随時開発	新規事業者の掘り起こしや、既存事業者と協力し150程度の返礼品を増加させた。更なる返礼品の増加に向け、返礼品開発のための補助事業を9月議会に提出中。			A
②ふるさと納税ポータルサイトの拡大	随時導入	高所得者層を新たなターゲットとするため、10月中に高島屋のポータルサイト開設に向け、準備を進めている。			A
③ふるさと納税のPR	随時実施	返礼品に重点を置いたカタログの作成と実績報告書を作成中。Webを活用した様々なPR活動を実施している。			A
次年度以降の方向性	さらなるPRを強化し、寄附額の増加を図る。				
令和4年度目標①	260品	令和4年度実績	1335品	KPI評価	A
令和4年度目標②	100,000千円	令和4年度実績	1,100,000千円	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	100

・プランの内容

5	実施項目	ふるさと納税を活用したクラウドファンディングの推進				新規
担当課		企画課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・ふるさと納税の使い道をより具体化・明確化することにより、寄附者の情に訴えかけ、賛同してもらえる事業としてインセンティブを働かせ、寄附を募り、財源確保のための一助として、所謂ふるさと納税を活用したクラウドファンディングを実施します。 ・庁内WG等により、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングを実施するための手法、手順について定めた実施要綱を策定します。 ・クラウドファンディングを行うことにより、目標寄附額までの“見える化”が図られ、事業を行いたい担当課も含め、全庁的に目標寄附額達成までの取組が図られます。 ・更に、現在の寄附額が公表されているため、目標寄附額達成までの進捗状況を寄付者が確認することが出来ることにより、寄附のより一層の促進が期待できます。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①都留市ふるさと寄附金を活用したクラウドファンディングの実施要綱の策定 庁内WG等を経て、ふるさと納税を活用したクラウドファンディング要綱を策定し、スキームを確立する。			要綱策定	随時見直し	→	→
②都留市ふるさと寄附金を活用したクラウドファンディングの実施 ①で確立したスキームを活用し、各課からの募集を行い、寄附を募る。			運用	→	→	→
③クラウドファンディング事業の検証・見直し 終了または実施中のクラウドファンディング事業の内容について検証・見直しを行う。			随時見直し	→	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
都留市ふるさと寄附金を活用したクラウドファンディングの寄附額(千円/年)			0	1,000千円	2,000千円	2,000千円
⇒実際の達成度			0	0	124,015千円	194千円

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和3年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①都留市ふるさと寄附金を活用したクラウドファンディングの実施要綱の策定	随時見直し	要綱を作成したが、個別に計画を立て実施することとなった。			B
②都留市ふるさと寄附金を活用したクラウドファンディングの実施	運用	資金獲得の手法としてでなく、市の施策をPRするものとして実施することとなり、生涯学習課の商家資料館の回収に向けた調査費について実施中である。			A
③クラウドファンディング事業の検証・見直し	随時見直し	民間事業者が市の課題解決に資する活動を支援するためのCFを活用した補助事業の要綱を作成したが、時期尚早とのこと。			B
次年度以降の方向性	要綱および市の施策に対するCF実施の必要性を含め検討を行う。				
令和4年度目標	2,000千円	令和4年度実績	194千円	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	75

・プランの内容

6	実施 項目	企業版ふるさと納税(まち・ひと・しごと創生寄附)の活用				継続	
担 当 課		企画課		関 係 課	全課		
取組内容 (令和4年度ま でに実施する 内容)		・平成31年度から推進交付金と企業版ふるさと納税の併用が可能となったため、積極的な活用が期待されます。 ・推進交付金と併用の場合、通常3年間交付金の支援を受けられる事業が、一定条件を満たせば5年に延長できるため、推進交付金との併用を検討します。 ・現行の推進交付金の支援期間が令和2年度まであり、令和3年度以降の推進交付金を新規申請するタイミングで、企業版ふるさと納税との併用を検討します。 ・活用に至っては、内閣総理大臣あてに地域再生計画の認定を受ける必要があるため、事業を立案し申請・認定を受け、事業に賛同してくれる企業を募集し、事業着手を目指します。					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①企業に賛同してもらえる事業の立案 企業から募集できる新たな先進的な取組の立案をする。				検討	随時立案	→	→
②地域再生計画の申請・認定 内閣総理大臣あてに、地域再生計画(まち・ひと・しごと創生寄附活用事業)の申請・認定を受ける。				検討	申請・認定	検討	→
③事業に賛同してもらえる企業の募集 終了また地域再生計画の認定後、推進交付金と併用した事業に対し賛同してくれる企業の募集を行う。				調査	募集	→	→
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
企業版ふるさと納税の寄附件数(件数/年)				-	-	1件	1件
⇒実際の達成度				-	-	1件	2件

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①企業に賛同してもらえる事業の立案	随時立案	探究型学習を実践する運営主体の創設や体制整備を行う「学びのみらづくり事業」として事業化し、今年度から着手している。			A
②地域再生計画の申請・認定	検討	令和4年度の計画に基づき実施している。			A
③事業に賛同してもらえる企業の募集	募集	現在、1社との協定を結び、企業の賛同の元、活用を図っている。また今年度サンロードから寄付があった。			A
次年度以降の方向性	引き続き、「学びのみらづくり事業」を進めていく。また、他企業からの寄附の活用も検討していく。				
令和4年度目標	1件	令和4年度実績	2件	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	100

・プランの内容

7	実施 項目	公共サービスの民間委託の推進				継続	
担 当 課		企画課		関 係 課	全課		
取組内容 (令和4年度ま でに実施する 内容)		・民間事業者の提供されるサービスが日々向上している中、効率的な業務の執行と市民サービスの向上を目指し、従前から民間委託を検討してきた分野についても再度検討を行い、委託による事務の効率化と費用対効果を検証し、随時導入します。 (導入の例: 学校用務員、公用車運転、窓口業務の委託、市広報、社会体育施設等の受付窓口、水道の包括的民間委託など)					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①行政事務の外部委託の拡大に向けた調査 各部局に対し、所管している事業において外部委託へ移行したい事務事業の意向調査を実施する。また、「事務事業評価シート」に外部委託へ移行したい事務があるかの欄を設け、継続的に検討できる仕組みを構築する。				調査実施 とりまとめ	事務事業 評価シート で把握	→	→
②対象事業の決定(予算化・実施) ①のとりまとめ後(R2年度以降は事務事業評価とりまとめ後)、長期総合計画実施計画及び予算編成で協議し、随時導入を行う。					予算化協議 実施	→	→
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
外部委託導入事業実績数(導入事業累計件数)				-	2件	4件	6件
⇒実際の達成度				-	2件	5件	1件

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①行政事務の外部委託の拡大に向けた調査	事務事業評価シートで把握	事業実施状況等把握可能な欄を設け、外部委託へ移行したい事務について適宜確認できる仕組みを検討していくことを想定していたが、行政評価において、そうした確認作業に実効性がなく、本項目は不要の設定であったといえる。 また、各種計画策定など外部委託することで、業務に向き合う職員の意識が「自分事」で無くなるなど、チェック機能に欠く事例も散見されるため、職員能力の向上や、外部委託によって確実に効率性が向上するものなどを研究・整理し、その効果を検証することが本来KPIとして設定するべき指標といえる。			
②対象事業の決定(予算化・実施)	予算化協議実施	証明書のコンビニ発行、特定健康診査の受診勧奨、市民意識調査の実施			A
次年度以降の方向性	証明書の発行については、東桂地域コミュニティーセンター以外での発行業務についても、郵便局への業務委託を実施していく。				
令和4年度目標	6件	令和4年度実績	1件	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	75

・プランの内容

8	実施項目	指定管理者モニタリング制度の導入				継続	
担当課		財務課		関係課	指定管理者施設所管課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・指定管理者モニタリング制度を導入し、指定管理者による公の施設の管理運営に関し、法令、条例、協定書、仕様書等で定められている施設の運営や維持管理に関する業務を指定管理者が適切に実施しているかどうか、指定管理者が提供しているサービスの水準が市の要求水準に満たしているか等について、点検し、評価を行い、公の施設の効率的・効果的な運用を図ることで市民サービスの向上を図ります。 ・モニタリングを実施するため、本市におけるモニタリングの標準的な手続きを示すものとして、指定管理者モニタリングマニュアルを作成します。					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①モニタリングマニュアルの作成 モニタリングの標準的な手続きを示すものとして、モニタリングマニュアルの素案を作成し、庁内の各種協議や手続きを経て、モニタリングマニュアルを作成する。				マニュアル素案作成	マニュアル完成・周知		
②モニタリング体制の確立 モニタリング制度導入を施設所管課及び指定管理者に周知し、適切にモニタリングし、改善点がある場合には適切に指導が実施できるような体制を確立する。				体制整備			
③指定管理者のモニタリング実施 指定管理者の施設所管課がモニタリングマニュアルに則り、適切に評価・検証(モニタリング)を実施する。						実施(隔年)	-
④モニタリングマニュアルの改善 実施に伴い、改善点等随時見直しを行う。						改善	→
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
指定管理者のモニタリング実施数(年間実施数)				-	-	7施設	-
⇒実際の達成度				-	-	7施設	7施設

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①モニタリングマニュアルの作成					
②モニタリング体制の確立					
③指定管理者のモニタリング実施	実施 (隔年)	マニュアルに則り、モニタリングを実施			A
④モニタリングマニュアルの改善	改善	前年度の運用実績の中で改善すべき点があるか確認している			A
次年度以降の方向性	施設所管課による委託業務の履行確認・問題点などの把握、改善等と共に随時マニュアルの改善も行い、適正なサービス提供に繋げていく。				
令和4年度目標	-	令和4年度実績	7施設	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	83.333

・プランの内容

9	実施項目	官民連携による無償コンテンツの拡大				新規
担当課		企画課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・官民連携による無償コンテンツを拡充することにより、自治体は市民サービスの向上と財源確保が実現し、民間企業は広告収入により、集客・売上・ブランディング力のアップが期待できるため、官民連携による無償コンテンツを拡大します。 ・現在、民間活力により導入しているコンテンツの他、市が導入したい媒体と民間が提供している媒体のマッチングを行い、都留市にメリットがあるものについて導入します。 ・公共施設に設置してある備品の一部に民間活力による無償提供を導入します。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①導入対象無償コンテンツの洗い出し 民間事業者が提供しているコンテンツの情報収集を行い、各課の意向とマッチングする。			情報収集 マッチング	→	→	→
②選定手法、広告取扱の検討 導入する無償コンテンツの事業者が複数ある場合の選定手法や、取り扱う広告についての基準等を検討する。			随時検討	→	→	→
③導入業者決定・契約(協定)の締結 業者からの提案を受け、導入業者・コンテンツを決定し、契約する。			随時導入	→	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
無償コンテンツの導入数(種類数累計)			5件	6件	7件	8件
⇒実際の達成度			5件	6件	6件	6件

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①導入対象無償コンテンツの洗い出し	情報収集 マッチング	4年間の無償コンテンツの設定は、各部局に提案があったものをカウントすることで、KPI達成としていたが、本コンテンツの拡大が具体的に市にどのような効果をもたらしていたか、効果検証が難しい観点がある。そうした状況の中、令和3～4年にかけて各事業者と連携協定を締結していく中で、無償での研修やイベント協力といった、ハードにとどまらないソフト事業の充実に官民連携手法を取り入れる方向となった点は成果といえる。			B
②選定手法、広告取扱の検討	随時検討				B
③導入業者決定・契約(協定)の締結	随時導入				B
次年度以降の方向性	今後は、ハードにとどまらない職員の能力向上や市民サービスの向上につながるような官民連携に力を入れていく必要がある。				
令和4年度目標	8件	令和4年度実績	6件	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	50

・プランの内容

10	実施項目	統一的な基準による新地方公会計制度の活用				継続	
担当課		財務課		関係課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		【行財財政改革への活用】 ①財務書類の作成・公表 市の現状を把握するために分かりやすく公表することで、市民の市政への関心と理解の拡大を図るほか、分析結果を分かりやすく公表します。 ②行政コストの検証・活用 公会計制度の各データを複数年度分検証し、類似団体と比較分析する中で、行政サービスに係るコストの状況を今後の行財政運営に活用します。					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①財務書類の作成・公表 市の現状の“見える化”を行う。				実施	→	→	→
②行政コストの検証・活用 複数年度分の各データを検証し行政サービスにおけるコストなどの検証と活用手法の検討・実施を行う。				調査 検討	実施	→	→
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
財務書類の作成・公表及び行政コストの検証・活用等 (分析等の検証活用)				行政コスト の検証	行政コスト の検証	行政コスト の検証	行政コスト の検証
⇒実際の達成度				行政コスト の検証	行政コスト の検証	行政コスト の検証	行政コスト の検証

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①財務書類の作成・公表	実施	令和3年度分について作成した。			A
②行政コストの検証・活用	実施	類似団体等との比較を行い、今後の活用方法について検討していく。			A
次年度以降の方向性	国の指針では年度末までの公表が望ましいとされていることから、作成だけでなく公表までを目標とする。				
令和4年度目標	行政コスト の検証	令和4年度実績	行政コスト〇検証	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	83.333

・プランの内容

11	実施項目	公営企業会計の導入及び活用（簡水・下水）				継続	
担当課		上下水道課		関係課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・令和2年度当初予算から、簡易水道事業及び下水道事業において、地方公営企業法の一部適用(財務適用)を行い、安全でおいしい水の安定的供給、下水道整備による公共用水域の水質保全を確実に継続的に行っていきます。 ・発生主義を導入し、民間企業と同様の精度の高い財務諸表を作成することにより、公営企業の経営、資産等を正確に把握します。 ・この取組は、より計画的な経営基盤の強化、財政マネジメントの向上、適切な料金算定、経営の透明性の向上、住民ニーズへの迅速な対応に寄与します。					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①公営企業会計の導入 企業会計システムの導入、条例整備等を行う。				準備完了	導入		
②予算書・決算の調製、決算分析 公営企業会計の要件を満たす予算書、決算書を作成する。毎年度決算後には、類似団体との比較・分析を行い、現状を的確に把握する。				予算書作成	予算執行	決算分析	継続実施
③適切な資産把握と予算執行による業務検証 公営企業会計の導入によって適切な資産の把握を行い、また、予算執行の現状などを分析することにより、業務ごとの効率・効果を検証する。						決算検証	→
④適切な料金算定 経営に要する経費の的確な原価計算により、さらに適切な料金算定、試算等を行う。						決算書の分析等	適切な料金の試算等
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
都留市水道施設整備基本計画 都留市公共下水道全体計画 都留市公共下水道事業計画 等改訂				関係計画改訂 (中期スパン)	→	決算分析による施設計画への反映検討	計画反映
⇒実際の達成度				準備完了 予算書作成	計画改定のための経営分析	決算分析による施設計画への反映検討	経営戦略策定

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①公営企業会計の導入					
②予算書・決算の調製、決算分析	継続実施	(共通) 令和3年度決算の調製及び令和4年度予算の執行並びに令和5年度予算書の編成について、日々の経理業務を適切に処理している。また、担当職員が関連する研修には積極的に参加しスキルの向上に努めている。			A
③適切な資産把握と予算執行による業務検証	決算検証	(共通)令和4年度建設工事の内容について、資産登録及び資産除却を行い、固定資産台帳を整備した。 (下水)経営・財務マネジメント事業を活用し、アドバイザーをはじめ県担当者と協議を行い、決算から見える都留市下水道事業の改善箇所等を検証した。			A
④適切な料金算定	適切な料金の試算等	(簡水)今後の料金算定や改定時期等の検討材料として「都留市水道事業ビジョン(2021)」で示した令和3年度以後のシュミレーションと令和3年度決算の経営状況等を照らし合せて、PDCAサイクルの事後検証により、シュミレーションと比較したところ実績値が下回ることが判明した。 (下水)公営企業会計による新たな経営戦略を策定する中で、適正な料金設定及び改定時期等を検討し、投資・財政計画(収支計画)を作成した。			A
次年度以降の方向性	(簡水)「都留市水道事業ビジョン(2021)」のPDCAサイクルによる事後検証の結果を踏まえ、将来見通しの再評価を行うとともに、平成29年度に策定した「都留市水道事業経営戦略」による計画の進捗や経営状況等について再検証し、経営改善に向けて見直しを行う。 (下水)経営戦略が策定できたことから、基本方針である「適正な使用料設定」や「下水道接続率の向上」等の具体的施策に取り組むことで、より一層の経営健全化を図る。				
令和4年度目標	計画反映	令和4年度実績	経営戦略策定	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	100

・プランの内容

12	実施項目	市立病院の経営改善				新規
担当課		市立病院 総務企画課	関係課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・方針や目標をしっかりと定め、これまで急性期一般病床のみであった病院から回復期や慢性期にも対応できる病院へと方向を転換し、病床稼働率の上昇を目指します。また、併せて組織の活性化を図り、サービスの向上につなげ、収益の改善を目指します。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①各種アンケート調査の実施 組織の活性化及びサービスの向上のため、患者満足度調査及び職員意識調査等を実施する。			実施	結果に基づく改善・実施	→	→
②接遇及びコンプライアンス研修の実施 多くの職員が参加できるよう、講師を招き院内研修を行う。			実施	→	→	→
③病床機能の再編の実施 回復期や慢性期にも対応できる地域包括ケア病床を取り入れる。			準備	実施		
④新病院改革プランの見直し 現プランの実績を基に老朽化する施設の管理計画も含めた新プランの改定を行う。			計画の推進	計画推進見直し	新計画の策定	計画の推進
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
医業収支比率(収支比率)			89.9%	101.3%	101.5%	101.5%
⇒実際の達成度			82.50%	78.10%	82.86%	84.92%

・取組状況(令和4年度)

年度別計画		令和4年度			
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①各種アンケート調査の実施	結果に基づく改善・実施	昨年度実施の患者へのアンケート調査に基づく改善については、結果をまとめ職員に対し報告を行った。患者アンケートは、3月に一部を広報にて公表予定。			A
②接遇及びコンプライアンス研修の実施	実施	後期にて研修を実施予定。新型コロナ感染症等、感染状況も踏まえつつ実施の方法も検討する。			B
③病床機能の再編の実施					
④新病院改革プランの見直し	計画の推進	検討会において中間報告が公表され、策定期限がR4又はR5と示されたことから、経営強化プラン策定までの間、経営計画策定方針を公表済。R5に経営改革プラン策定を目指し、関係部署と協議中。			A
次年度以降の方向性		新型コロナ感染症の影響により、経営は厳しいが、病床稼働率の上昇を目指し、病床の有効活用方法等を模索していく。また地域包括ケア病床の安定的な稼働を確保、可能な限り経費削減を確実に行之、厳しい状況下にあっても、引き続き改善を進めていく。			
令和4年度目標	101.5%	令和4年度実績	84.92%	KPI評価	C
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	62.5

・プランの内容

13	実施項目	介護老人保健施設「つる」の経営改善				新規
担当課		介護老人保健施設「つる」	関係課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・多職種が連携して在宅復帰率を高めるとともに、組織体制を整備して介護報酬改定の動向を踏まえることにより、施設基準をあげて健全経営を目指します。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①処遇改善加算の実施 処遇改善加算の取得により、職員の職務意識の向上を図る。			準備実施	実施	→	→
②業務研修への積極的参加 各職員が業務研修に積極的に参加する。			実施	→	→	→
③介護報酬基本型から加算型への移行実施 ※制度改定による見直し有り			維持	実施	(加算型)維持	(加算型)維持
④地域包括ケアシステムの推進 在宅復帰に向けたリハビリの強化			計画の推進	計画の推進 見直し	計画の推進 策定	計画の推進
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
事業収支比率(収支比率)			98.0%	99.0%	100.0%	101.0%
⇒実際の達成度			90%	89%	81%	72%

・取組状況(令和4年度)

年度別計画		令和4年度			
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①処遇改善加算の実施	実施	令和3年度実績報告及び令和4年度申請書提出。前年度より入所者増加により加算額についても増加している。			A
②業務研修への積極的参加	実施	令和4年度研修計画策定し計画通り受講。今年度は本施設が実地研修施設として登録し、研修カリキュラムや資料作成に取り組んだ。また、初めて薬剤研修会を実施し、薬剤に対する意識を高めた。			A
③介護報酬基本型から加算型への移行実施	(加算型)維持	施設基準は加算型を継続している。在宅復帰を想定し積極的に訪問指導を実施している。			A
④地域包括ケアシステムの推進	計画の推進	令和4年度よりリハビリ職員1名増加し4名体制となる。業務内容や人員体制の見直しを行い、多職種を交えた一人一人にあったリハビリを実施し在宅復帰を進めている。			A
次年度以降の方向性		申請から入所までの期間短縮と待機者の確保による安定した稼働率を目指し、業務改善を図りながら、算定できる加算を取得していく。			
令和4年度目標	101.0%	令和4年度実績	72.30%	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	90

・プランの内容

14	実施項目	基金の効率的運用				継続
担当課		会計課	関係課	財務課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・基金という公金を、安全性と流動性を確保した上で効率的・効果的に運用するため、定期預金による運用や一部導入している公募公債のほか、国債、政府保証債、地方債に準ずる債権(地方公共団体金融機構債)、財投機関債など、安全で利回りの高い債券による確実な資金運用方法を、金利動向も見据える中で検討し、有益と認められるものを導入します。 ・平成30年度に定めた【債券運用指針】に基づき、長期的に安全かつ効率的な運用を行い、自主財源の確保を行っていきます。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①新たな資金運用の検討、導入 債券運用指針に基づき、新たな運用方法及び運用対象の金融商品を検討し、有益と認められるものを導入し、基金の効率的な運用を図る。			情報収集 検討	随時導入 運用	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
債券などによる資金運用比率(資金運用比率/年)			12.6%	12.6%	13.9%	15.0%
⇒実際の達成度			11.4%	14.8%	14.1%	15.3%
基金利息(利息金/年)			4,127千円	4,127千円	4,327千円	4,510千円
⇒実際の達成度			4,127千円	4,127千円	4,384千円	4,654千円

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①新たな資金運用の検討、導入	随時導入 運用	今年度新たに有益で利回りの高い「利付国庫債(20年)」を購入し、長期的に安全かつ効率的な運用を開始した。			A
次年度以降の方向性	引き続き、安全かつ利回りの状況等(毎年10月上旬に発行される山梨県公募公債等)に注視し、検討していく。				
令和4年度目標	15.0%	令和4年度実績	15.3%	KPI評価	A
令和4年度目標	4,510千円	令和4年度実績	4,654千円	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	100

・プランの内容

15	実施項目	証明書コンビニ等交付による市民利便性の向上				新規
担当課		企画課	関係課	市民課、税務課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・コンビニなどで住民票等証明が取得できるよう方針の策定及び運用実施します。 ・システム管理者(市役所、対象店舗)との技術的な協議を行ない、スムーズで効果的な導入ができるよう取り組みます。 ・コンビニ等での証明書取得についてマイナンバーカードと関連付けを行い周知活動をしていきます。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①導入方針の策定 発行対象となる証明の選定などの方針を策定する。また、導入前後の市民への周知方法、運用拡大など検討する。			導入検討	導入方針策定(予算化)	運用開始周知	周知
②技術・運用の検討及び協定 システムなど技術面での検討を行い、運用に向けて対象店舗との協定を行う。			運用検証	協定		
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
コンビニ等による証明発行数(発行件数/月)			-	-	100件	150件
⇒実際の達成度			-	-	100件	2340件

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①導入方針の策定	運用開始 周知	マイナンバーカードの取得促進チラシに、マイナンバーカードを利用してコンビニで住民票や印鑑証明書を取得できることを掲載し周知			A
②技術・運用の検討及び協定					
次年度以降の方向性	今後もコンビニ等での証明書取得についてマイナンバーカードと関連付けを行い周知活動をしていく。				
令和4年度目標	150件	令和4年度実績	2340件	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	100

・プランの内容

16	実施項目	窓口業務における支払のキャッシュレス化				新規
担当課		企画課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・令和元年度にデータ抽出等を行い、窓口業務におけるキャッシュレス化の対応可能な課の抽出を行います。(市民課、税務課などを想定) ・令和3年度の実施に向け策定方針等を設け、取り組みを行います。 ・並行して税金等(水道料金、河川占用料、施設利用料など)、市の収入となる全てのクレジット決済の検討も併せて取り組みを行います。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①キャッシュレス化可能な支払対象の抽出 窓口での支払いにおいて、キャッシュレス化できる対象について洗い出しを行い、データの抽出を行い、庁内WG等で協議する。			データ抽出 調査実施	内容 (範囲等) 検討		
②キャッシュレス方法等の運用方法の検討 PayPayやLinePayなど電子決済の導入業者の検討及び運用方針を策定する。				運用方針 策定		
③実施に向けた準備、周知、例規整備等 運用方針の決定に基づき、各課導入に向けた備品、市民への周知、必要に応じて例規等整備を行う。				導入準備	周知	
④運用開始 実際に窓口での運用を開始。					一部業務 試行運用	本格運用
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
キャッシュレス利用者数(累計件数)			-	-	100件	150件
⇒実際の達成度			-	-	1001件	956件

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①キャッシュレス化可能な支払対象の抽出					
②キャッシュレス方法等の運用方法の検討					
③実施に向けた準備、周知、例規整備等					
④運用開始	本格運用	市民課、税務課の各窓口での各種証明書交付手数料の支払いについては、キャッシュレス決済サービスの運用を行っている。			A
次年度以降の方向性	今後も、利便性を周知するとともに、利用拡大に向けた検討、研究に取り組む。				
令和4年度目標	150件	令和4年度実績	956件	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	100

・プランの内容

17	実施項目	アプリを活用した道路・公園等における不具合箇所の通報方法の創出				新規	
担当課		建設課		関係課	施設所管課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・市民の方が道路や公園を安全に利用するため、不具合箇所を早急に情報収集し、より素早い修繕を実施するため、SNSなどのスマートフォンのアプリを利用(又は開発)した通報方法を創出し、位置情報や損傷状況(写真)により、簡易的に修繕の可否を判断します。 ・アプリなどで電子データとして情報を残すことにより、統計データが容易に作成でき、今後の工事、修繕方針などにも活用することができます。					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①導入効果が見込まれるアプリの選定 先進事例等の情報収集等を行い、アプリ導入の可能性について、検討、研究する。				検討研究			
②運用方針作成 検討した有効な手法の運用方針など実用、市民への周知方法等の検討を行う。				運用方針作成・周知	運用開始	→	→
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
全体の修繕箇所に対する割合(%)				-	5%	10%	30%
⇒実際の達成度				-	6%	11%	30%

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①導入効果が見込まれるアプリの選定					
②運用方針作成	修繕方針の検討	市民から気軽に通報してもらおうという目的は達成できているが、工事や修繕方針に反映できるような内容はすくない。軽微な補修に関しては素早い対応ができていることから一定の効果が出ている。			A
次年度以降の方向性	アプリを活用した通報方法があることを広報PR活動をつうじて推進する				
令和4年度目標	30%	令和4年度実績	30%	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	75

・プランの内容

18	実施項目	ふるさと納税を活用した電子感謝券の導入とキャッシュレス社会への基盤形成				新規		
担当課		企画課		関係課	全課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・特色ある返礼品として寄附と同時に電子ポイントを付与する電子感謝券を導入します。 ・ふるさと納税では果物や加工品など1次産業、2次産業中心ですが、電子感謝券を導入することにより、飲食店やサービス業等がふるさと納税の事業者として加わることができ、本市の課題である3次産業が比較的高いという特徴を逆に活かすことが出来ます。 ・電子感謝券を導入することにより、電子感謝券をきっかけに「ヒト」が本市に足を運び、地域の魅力に触れるきっかけとなります。 ・寄附者には電子ポイントが付与されることにより、通常の返礼品を送付するための送料が発生しないため、コスト削減にもつながります。 ・電子感謝券については、市内の参画する店舗にQRコードを配布し、寄附者が金額を入力し、そのQRコードを読み取る形をとるため、いずれ到来する市内事業者へのキャッシュレス社会への基盤形成にも寄与することができます。						
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)					R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①電子感謝券導入に向けた準備・運用 電子感謝券導入に向け、市内事業者への周知、説明会等を行う。					周知 説明会実施 導入	→	→	→
(KPI)数値目標・実施目標					R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
電子感謝券による寄附額(千円/年)					100千円	150千円	200千円	250千円
⇒実際の達成度					210千円	40千円	130千円	10千円

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①電子感謝券導入に向けた準備・運用	周知 説明会実施 導入	電子感謝券は導入したが、周知不足のためか、活用事例が少ない。			B
次年度以降の方向性	周知の徹底と、参入企業の拡大を図る。				
令和4年度目標	250千円	令和4年度実績	10千円	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	50

・プランの内容

19	実施項目	電子納税の促進及び利用拡大				新規	
担当課		税務課		関係課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・電子納税システムの利用拡大に向けて、企業(特に中小企業)に対して周知活動を行っていきます。 ・パソコン、スマホ、携帯電話、ATMからネットワークを通じて納税できるペイジー方式や、クレジットカードによる納税など、新たな納税方法の導入について検討し、納税者の更なる利便性向上を図ります。					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①電子納税の拡大 有効な周知方法の検討・実施により周知方針の決定及び実施を行う。				周知方針決定	周知	→	→
②ペイジー方式による納税の調査検討実施 Yahoo公式アプリなど、他市町村で利用されている効果の高いペイジー方式について検討・実施を行う。				調査検討	運用検証 協定締結	一部業務 試行運用	本格運用
③クレジットカード納税の調査検討実施 税目別の検討及び実施を行う。				調査検討	運用検証 協定締結	一部業務 試行運用	本格運用
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
電子納税件数の増加(件数/年)				50件	100件	150件	200件
⇒実際の達成度				50件	585件	1054件	3292件

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①電子納税の拡大	周知	特別徴収事業者や法人市民税事業所に対し、各種通知等に併せて電子納税の利用案内を行った。			A
②ペイジー方式による納税の調査検討実施	本格運用	令和5年度からの共通納税の税目拡大に併せ、QRコードを利用したペイジー方式の支払いに対応出来る見込みとなった。			A
③クレジットカード納税の調査検討実施	本格運用	令和5年度の共通納税の税目拡大に併せたクレジットカード納税の導入について、システムベンダー等と調整を図っている。			A
次年度以降の方向性	引続き共通納税の税目拡大に併せ、納税方法の拡充やQRコード納付書対応への環境整備を進める。				
令和4年度目標	200件	令和4年度実績	3292件	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	100

・プランの内容

20	実施項目	外来診療待ち時間の縮減				新規
担当課		市立病院 医事課	関係課	市立病院 総務企画課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・紙カルテを完全廃止し、電子カルテシステムに完全移行します。 ・外来診療における予約制の導入。予約率60%を目指します。 ・再来機を導入し、受付時間の短縮を図ります。 ・外来診療待ち時間調査を行い、効果検証を行います。 ・職員接遇研修によるホスピタリティーの向上に努めます。 ・医療専門職(医師・看護師等)の充実を図り、診療の効率化を実現します。 ・スマホ決済等の導入を検討し、会計業務の効率化を図ります。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①外来患者実態調査の実施 電子カルテシステムにおいて実態はどれほど利用されているかの調査を行う。			調査			
②外来患者数/予約受診患者数の統計調査 統計調査より予約枠設定の検討などを行う。			調査			
③再来機設置の検討(機能・システムの確認) 再来機設置にあたり機能やシステムの再確認を踏まえ全体で利用するよう促す。			検討 導入	→	→	→
④会計システムの機能集約を検討 (現金、カード決済の一元化等)スマホ決済等、導入を検討する。			情報収集 導入検討			
⑤電話による予約変更受付 予約などにおいては基本的には病院で行ってきたが電話での予約を可能とする。			実施検討 試行実施	実施	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
外来患者予約率(予約率/年)			50%	70%	→	→
⇒実際の達成度			41.50%	70%	70%	80%

・取組状況(令和4年度上半期)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①外来患者実態調査の実施					
②外来患者数/予約受診患者数の統計調査					
③再来機設置の検討(機能・システムの確認)	稼働	R4年10月より一部の診療科から稼働し始め、使用環境を調整しながら順次適用科を拡大している。			A
④会計システムの機能集約を検討					
⑤電話による予約変更受付	実施	診療科によっては、投薬等の関係からシステム変更が不可である診療科もあるが、健診や予防接種、定期診療において実施の目途がついた。システム改修に費用を要するため、予算要求の上来年度の導入・稼働とした。			B
次年度以降の方向性	外来患者の要望に沿えるような取り組みが徐々に叶えられている。会計や診療待ちに関する案内表示板の改修も行い、待ち時間に対する患者の心理的負担感の軽減につながった。				
令和3年度目標	70%	令和3年度実績	80%	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	83.333

・プランの内容

21	実施項目	AI・RPA等を活用した業務効率化				新規
担当課		企画課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・職員が行っている定型業務及びルーティン業務をAI・RPA等のICTを活用し、自動化することにより、生産性の向上及び、ヒューマンエラーの防止等、作業品質の向上を図ります。 ・AI・RPA等のICTの活用について、本格導入を見据えた長期的な計画で、業務改善を着実に遂行できるようにします。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①AI・RPA等を活用した業務効率化 ・技術的検証 AI・RPA等を業務に適用できるかの実現可否検証 ・運用管理体制の検討 ・導入効果に対する検証 ・AI・RPA等の導入構成の検討			技術運用検証	導入構成検討 (予算化)	一部業務 試行運用	本格運用
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
AI・RPA導入業務数(累計導入業務数)			-	5業務	10業務	10業務
⇒実際の達成度			-	3業務	4業務	7業務

・取組状況(令和4年度上半期)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①AI・RPA等を活用した業務効率化	本格運用	今年度より対象業務の選定支援にあたり、ツール(プロセスマイニング等の技術)を用いて職員負担を軽減する形で業務分析にも試行的に取り組んでいる。			A
次年度以降の方向性	行政手続きのオンライン化におけるRPAの導入も含めて、検証を行い、業務効率化を図っていく。また、近隣市町村との協働利用も含めた横展開への検討に取り組む。				
令和4年度目標	10業務	令和4年度実績	7業務	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	75

・プランの内容

22	実施 項目	自治体クラウド等の導入による行政サービスの効率化				継続	
担 当 課		企画課		関 係 課	全課		
取組内容 (令和4年度ま でに実施する 内容)		・国では、「自治体クラウド」の導入により職員の負荷軽減やコストダウンが見込まれることを示していることから、上記の問題確認を踏まえ、本市における基幹系を含む全庁的な業務システムの今後の方針を検討した結果を踏まえ、自治体クラウドを導入します。 ・山梨県の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」に基づいたシステム基盤を構築し、県内全市町村が共同利用する「総合型校務支援システム」を導入し、教職員の業務効率化、高度化を図ります。					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①都留市ICT最適化計画の策定 発行対象となる証明の選定などの方針を策定する。また、導入前後の市民への周知方法、運用拡大など検討する。				計画策定			
②自治体クラウドの導入 システムなど技術面での検討を行い、運用に向けて対象店舗との協定を行う。				検討 検証	臨時導入 運用		
③基幹系システムのクラウド化 システムなど技術面での検討を行い、運用に向けて対象店舗との協定を行う。				クラウド 検討	クラウド 検討	クラウド 切替	本格運用
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
システムのクラウド化件数(クラウド化累計件数)				-	1件	2件	3件
⇒実際の達成度				-	2件	2件	3件

・取組状況(令和4年度上半期)

年度別計画	令和3年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①都留市ICT最適化計画の策定					
②自治体クラウドの導入					
③基幹系システムのクラウド化	本格運用	クラウド環境を使用した新基幹系システムの安定的な稼働に努めている。標準化・共通化への移行に向けた準備に着手した。			A
次年度以降の方向性	令和7年度までに自治体情報システム(20業務)をガバメントクラウドへ安心・安全に移行するため、標準化・共通化への取り組みを推進する。				
令和3年度目標	3件	令和3年度実績	3件	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	100

・プランの内容

23	実施 項目	GIS(地理情報システム)の充実・活用				継続
担 当 課		企画課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度ま でに実施する 内容)		・各課で策定している各種計画等の情報は紙ベースのものが多いため、レイヤーを用意して、データ化していきます。 ・GIS画面上でデータを共有し、"見える化"することで事務効率の向上が見込めるため、各課にアンケートを行う等により引き続き情報を充実させます。(自治会情報など) ・本市の政策推進のために、基幹系システムとの連携などについて検討、研究します。 ・データの利用を進めるために、共用空間データの適切な更新を行います。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①統合型GIS操作研修会の開催 一般職員向けには統合型GISの操作方法について学習を行い、管理者向けには新規レイヤー及び新規属性テーブルの設定等、管理者が実施する操作について学習する。			実施	→	→	→
②統合型GISシステムの機能拡充 基幹系システムとの情報連携などの機能を拡充させる。			検討	システム 見直し	試験運 用	本格運用
③地図データの整備・更新 共用空間データの整理、更新を適切に実施し、重複作業の軽減と利用の向上を目指す。			—	—	検討	整備方 針 決定
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
地図データ更新率			—	調査中	15%	15.50%
⇒実際の達成度			—		15.03%	15.80%

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①統合型GIS操作研修会の開催	本格運用	統合型GISの更改にあたり、共用空間データを再整備することを目的として、検討会を開催し、再整備に関する現状の課題をまとめ、共用空間データ活用基本計画の骨子を策定した。			A
②統合型GISシステムの機能拡充	整備方針決定	共用空間データ製品仕様書(案)及び共用空間データ活用基本計画(案)のを策定した。			A
次年度以降の方向性	今後、共用空間データ活用基本計画に基づいた共用空間データの再整備及びGISシステムの更新を適切に実施する。				
令和4年度目標	16%	令和4年度実績	16%	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	100

・プランの内容

24	実施項目	マイナンバーカードの取得促進に係る取組の推進				新規
担当課		企画課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・健康保険証としての利用を見据えて、職員及びその被扶養者(臨時職員も含む)は、令和元年度中にマイナンバーカードの取得を推進します。 ・全庁的な協力を得る中で、来庁者へのマイナンバーカード申請勧奨及び申請に係るサポートの実施を図ることで、マイナンバーカードの交付枚数増加につなげます。 ・全国共通のマイナポイントを活用したスマホ決済サービスの導入が予定されているため、利用に必要なマイキーIDの設定に係るサポートの実施を図ります。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①オンライン申請用ブースの常時設置 本庁舎内にマイナンバーカードの取得及びマイキーID設定のオンライン申請ができるブースを設置し、職員等が補助する体制を構築する。			検討 試験運用	実施		
②申請時来庁方式・出張申請方式の導入 申請時に本人確認を実施し、本人限定郵便により交付を行うこと及び集客数の多いイベント会場や企業等へ出向いて申請を受け付ける体制を構築する。			検討 試験運用	実施		
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
マイナンバーカードの発行枚数(発行枚数/年)			500枚	5,000枚	10,000枚	10,000枚
⇒実際の達成度			367枚	5000枚	4198枚	9377枚

・取組状況(令和4年度上半期)

年度別計画	令和3年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①オンライン申請用ブースの常時設置					
②申請時来庁方式・出張申請方式の導入					
次年度以降の方向性	マイナンバーカードの独自利用など、市民の利便性を高めるための利活用の促進や新たな行政サービスでの活用に取り組む。				
令和4年度目標	10,000枚	令和4年度実績	9377枚	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	50

・プランの内容

25	実施項目	マイナンバーの独自利用・多目的利用				継続
担当課		企画課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・マイナンバー制度の活用により、事務手続きが簡略化し、市民の利便性を高めるため、図書館利用など行政サービスでの利用できる仕組みづくりと、マイキープラットフォームを活用した地域経済応援ポイントの導入、公的個人認証サービス等の導入の可能性について研究、検討し、利用拡大を図ります。 ・マイナポータルを利用できる環境整備として、庁内への常設、必要に応じての一時貸出し等の利用拡大に向けた取組を実施します。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①マイナンバー独自利用・多目的利用の導入検討 独自利用事務の情報連携、行政サービスでの利用、更には、マイキープラットフォームを活用した地域経済応援ポイントの導入、公的個人認証サービスの導入等の可能性について、検討、研究し、利用拡大を図る。			導入に向けた検討	導入に向けた実証	導入	本格運用
②マイナポータルの利用拡大 マイナポータルを利用できる環境整備として、庁内への常設、必要に応じての一時貸出し等の利用拡大に向けた取組を実施する。			利用環境の整備	実施		
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
マイナポータルの利用件数(利用件数/年)			1件	5件	10件	50件
⇒実際の達成度			124件	171件	191件	628件

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①マイナンバー独自利用・多目的利用の導入検討	本格運用	マイナポータルのぴったりサービスを利用して、子育てや介護の手続きを、オンラインで申請できるように導入を検討する。			A
②マイナポータルの利用拡大					
次年度以降の方向性	上半期はマイナポイント第2弾のポイント申請が始まったこともあり、マイナポータルの利用が大きく増加した。利用者の増加に伴い、オンライン申請の需要も見込まれることから、導入に向けて準備していく。				
令和4年度目標	50件	令和4年度実績	628件	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	100

・プランの内容

26	実施項目	情報セキュリティポリシーの運用				継続
担当課		企画課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・全職員の情報セキュリティに対する意識を向上させ、情報資産を安全かつ適切に取り扱えるようにするための職員研修を毎年度実施します。 ・研修内容については、情報セキュリティに対する意識を持ち、日々の業務に従事できるように、情報セキュリティに関する理解度に応じた研修を実施していきます。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①eラーニングによる情報セキュリティ研修 eラーニングを活用し、情報セキュリティ、個人情報保護及びマイナンバー制度等について学ぶことで、業務上必要な知識等を取得する。			実施	→	→	→
②新規採用職員等研修会 情報セキュリティポリシーの遵守の必要性の認識及び情報セキュリティに関する基礎的な知識を学ぶことで、セキュリティ意識の醸成を図る。			実施	→	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
情報セキュリティインシデント(発生件数)			0件	0件	0件	0件
⇒実際の達成度			0件	0件	0件	0件

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①eラーニングによる情報セキュリティ研修	実施	職員のセキュリティに対する意識やリテラシーを向上させるため、eラーニングを活用し、情報セキュリティ、個人情報保護及びマイナンバー制度に関する研修を実施した。(103名)			A
②新規採用職員等研修会	実施	職員のセキュリティに対する意識やリテラシーを向上させるため、eラーニングを活用し、情報セキュリティ、個人情報保護及びマイナンバー制度に関する研修を実施した。(6名)			A
次年度以降の方向性	今後は、情報資産を適切に管理していくために、情報資産台帳の整備を行う。				
令和4年度目標	0件	令和3年度実績	0件	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合点	100

・プランの内容

27	実施項目	人事評価制度の活用推進				継続
担当課		総務課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・人事評価マニュアルの見直しを行い、人事評価結果を勤勉手当、昇給及び分限に活用するとともに、会計年度任用職員に対しても実施します。 ・人事評価の給与等への反映については、研修の継続的な実施により、公平公正な制度の構築を図ります。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①人事評価マニュアルの見直し 会計年度任用職員制度の導入に伴う見直しを行うとともに、人事評価の質の向上を図るため、マニュアルの見直しを行う。			実施	→	→	→
②人事評価の勤勉手当、昇給への反映 評価結果を勤勉手当、昇給等に活用し、人事評価の実効性を高める。			実施	→	→	→
③会計年度任用職員に対する人事評価の実施 会計年度任用職員に対する人事評価を実施し、会計年度任用職員の適切な人事管理を行う。			検討	実施	→	→
④評価者研修、被評価者研修の実施 評価者や被評価者の評価に偏りがでず、適正な評価が行えるよう研修等を実施する。			実施	→	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
人事評価の実施(実施)			給与等への反映	会計年度任用職員への対象拡大	人事評価の質の向上	人事評価の質の向上
⇒実際の達成度			給与等への反映	会計年度任用職員への対象拡大	人事評価の質の向上	人事評価結果の反映の徹底検討

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和3年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①人事評価マニュアルの見直し	実施	人事評価の質の向上のため、前年度の実施結果を踏まえた、マニュアルの見直しを行った。			A
②人事評価の勤勉手当、昇給への反映	実施	人事評価による評価結果を基に、勤勉手当及び昇給への反映を行った。			A
③会計年度任用職員に対する人事評価の実施	実施	会計年度任用職員に対し人事評価を実施(業績評価に当たる評価項目を追加)し、再度の任用にあたっての給与・報酬への反映を予定している。			A
④評価者研修、被評価者研修の実施	実施	eラーニングの試験的实施を予定しており、その中で階層別に研修計画を検討している			A
次年度以降の方向性	定年延長に合わせ、総人件費が増えていく見立てとなっており、国で実施している高齢職員への昇給抑制の徹底を図るため、組合と協議を引き続き行っていく。なお、人事評価の結果が標準に満たない者についての昇給・勤勉手当への反映を実施していく。				
令和4年度目標	人事評価の質の向上	令和4年度実績	人事評価結果の反映の徹底検討	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	90

・プランの内容

28	実施項目	会計年度任用職員制度への適切な対応				新規
担当課		総務課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・会計年度任用職員制度の円滑な導入により、効率的な業務の遂行を推進します。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①会計年度任用職員制度導入 制度導入にあたり例規の整備を行い、円滑な導入を図る。			実施			
②業務内容の精査 業務内容の精査を行い、会計年度任用職員の適切な配置を実施する。			実施			
③配置の随時見直し 業務量の変化等により、必要に応じ、会計年度任用職員の配置の見直しを行う。			検討	実施	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
会計年度任用職員の有効な配置(実施)			制度設計	人事評価の導入	研修制度の確立	研修によるスキルアップの実施
⇒実際の達成度			制度設計	人事評価の導入	研修制度の確立	研修によるスキルアップの実施

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①会計年度任用職員制度導入					
②業務内容の精査					
③配置の随時見直し	実施	育児休暇等に伴う欠員対応や業務量に応じた配置を実施した。			A
次年度以降の方向性	コロナ禍からの脱却の動きがあり、各課の業務が通常時に戻りつつあるため、業務量の変化に応じた人員配置を行う。				
令和4年度目標	研修制度の確立	令和4年度実績	研修制度の確立	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	75

・プランの内容

29	実施項目	新規採用職員の確保				継続	
担当課		総務課		関係課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・高い技能を有する専門職をはじめとした優秀な人材の確保に向け、採用試験実施時期及び試験内容の見直しを行うとともに、職員採用に関する積極的な広報活動を行います。					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①採用試験に関する周知の充実 周知方法を見直し、優秀な人材が確保できるよう周知を行う。				実施	→	→	→
②採用試験の内容・手法の見直し 他市町村の状況等に関する情報収集を行い、随時、必要な見直しを行う。				調査研究	随時見直し	→	→
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
会計年度任用職員の有効な配置(実施)				9.4倍	9.6倍	9.8倍	10.0倍
⇒実際の達成度				5.4倍	10.6倍	6.15倍	4.4倍

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①採用試験に関する周知の充実	実施	広報での特集記事掲載、京市合同UIJタープ公務員就職相談会への参加等の実施。また、次年度へ向け採用試験広告の準備を行った。			A
②採用試験の内容・手法の見直し	随時見直し	本年度よりSPI適性検査を本格実施しており、効果の検証を行う。			A
次年度以降の方向性	新卒者の内定時期が年々早まっており、採用試験の時期を早めていく。また、あわせて周知活動を早めるため試験広告を掲載するなど、受験者の目に長くとまる機会を増やすことを図るとともに、試験内容の見直し(筆記試験免除等)やテストセンターの導入の検討を行い受験者の拡大を図っていく。				
令和4年度目標	9.8倍	令和4年度実績	6.15倍	KPI評価	C
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	66.667

・プランの内容

30	実施項目	勤務時間の削減				継続
担当課		総務課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・計画的な業務の推進、コスト意識の徹底等による時間外勤務の削減を図るとともに、ゆう活(年次有給休暇活用による生活スタイル変革)の実施等による年次有給休暇の取得を促進します。 ・また、時間外勤務の多い職員に対しては、医師による面談を実施し、健康の確保に努めます。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①ゆう活の実施 ゆう活の実施により、年次有給休暇の取得促進及び生活スタイルの変革を図る。			実施	→	→	→
②時間外勤務の精査 時間外勤務の内容を精査し、時間外勤務の縮減につなげる。			実施	→	→	→
③医師による面談の実施 1か月における時間外勤務時間が一定時間を超過した職員に対し、医師による面談を行い、職員の健康の保持に努める。			実施	→	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
1人当たり年間時間外勤務時間(時間外業務/年間)			210時間	205時間	200時間	195時間
⇒実際の達成度			129.1時間(参考:暦年)	180時間	161時間	152時間
1人当たり年次有給休暇取得日数(有給休暇取得日数/年間)			9.7日	10.0日	10.3日	10.5日
⇒実際の達成度			13.2日	10.8日	10.0日	10.0日

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①ゆう活の実施	実施	ゆう活の通年での実施を継続			A
②時間外勤務の精査	実施	月ごとの時間外勤務の状況把握の実施			A
③医師による面談の実施	実施	職員の超過勤務時間を把握し、時間外勤務が多い職員を対象に医師の面談を行い、職員の健康保持を図った。			A
次年度以降の方向性	時間外勤務の見える化を行っており、業務分担の見直しを進め、一人に対して業務が集中しないよう促していく。				
令和4年度目標	195時間	令和4年度実績	152時間	KPI評価	A
令和4年度目標	10.5日	令和4年度実績	10.0日	KPI評価	C
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	80

・プランの内容

31	実施項目	職員研修計画の策定				継続	
担当課		総務課		関係課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・職場研修、職場外研修、自己啓発の体系的かつ一体的な実施を図るとともに、知識と経験のある職員を人材育成専門官として配置します。					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①階層別研修の充実 職位・職責に応じた研修を実施し、職員のスキルアップを図る。				実施	→	→	→
②職員研修計画の策定 職員研修計画を策定し、各種研修の体系化による効果的な研修を実施する。				実施	→	→	→
③人材育成専門官の配置 知識と経験のある人材育成専門官として配置し、効果的な職員研修が実施できる体制を構築する。				調査研究	→	実施	→
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
1人当たり職員参加回数(参加回数/年)				3.0回	3.3回	3.6回	4.0回
⇒実際の達成度				3.6	2.1	3.6	4.1

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①階層別研修の充実	実施	市町村職員研究所が開催する研修を積極的に活用し、階層別研修を実施。			A
②職員研修計画の策定	実施	人事評価の結果等を基に、次年度に向けた職員採用計画を策定する。			A
③人材育成専門官の配置	実施	令和4年度の専門官設置に向け、他市の状況を踏まえ、人材育成専門官に求められる能力、経験等に係る検討を実施。			B
次年度以降の方向性	eラーニングを半年間試験的实施を行い、191講座286視聴の実績であった。月平均47の視聴であり、費用対効果は高いものといえるため、次年度も継続的に実施していく。また、本年度着任した石井参与をアドバイザーに迎え、人材育成専門官の推進を図っていく。				
令和4年度目標	4.0回	令和4年度実績	4.1	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	87.5

・プランの内容

32	実施 項目	防災・減災に対する職員の育成				新規	
担 当 課		総務課		関 係 課			
取組内容 (令和4年度ま でに実施する 内容)		・市職員を対象とした、防災・減災研修会を定期的に行い、市職員の災害対応の習得や意識の高揚を図ります。					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①市職員を対象とした、防災・減災研修会の開催 毎年、防災・減災研修会を開催し、すべての職員が災害に対応できる職員として育成するとともに、職員の防災意識の向上を図る。				実施	→	→	→
②市職員の「防災士」資格の取得 防災士資格の取得に向け、研修会への参加等を促進する。				検討	実施	→	→
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
職員の「防災士」資格の取得(人／年)				-	1人	1人	1人
⇒実際の達成度				-	1人	1人	2人

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①市職員を対象とした、防災・減災研修会の開催	実施	幹部職員や新任職員への研修会を実施している他、防災訓練での業務確認や事前研修会を実施した。特に、避難所職員の研修会や新任職員の研修会は、早期実施を心がけた。また、部課長を対象に、地域防災のリーダー向けの講演会に出席いただき、家庭や地域での防災の備え等について触れていただく機会を設けた。			A
②市職員の「防災士」資格の取得	実施	職員2名が防災士資格取得に向けた研修会に参加し、試験に合格している。			A
次年度以降の方向性	訓練に附随した研修会だけでなく、浸水想定区域や富士山火山に関するもの等、新たな研修を開催したい。				
令和4年度目標	1人	令和4年度実績	2人	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	100

・プランの内容

33	実施項目	住宅用火災警報器の普及設置拡大事業				新規	
担当課		消防課		関係課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・市民に対して積極的な啓発活動を実施し、住警器を地域での共同購入を推進します。この取り組みにより、設置率の向上が図られ、SC事業が目指す、防災面からの安心、安全のまちづくりを実現します。 ＜共同購入のメリット＞ ・個人個人で購入するよりも、購入の手間が軽減。 ・高齢者世帯等への取付け支援など、購入後の設置も近所や協力団体等で協力。 ・近所で同じ警報音を発する住警器を設置することで、火災の際近所の方が気付きやすくなる。 ・メンテナンスも近所で協力。 ・交換時期が近所で同時期になるため、交換もスムーズに実施。 ・共同で購入すれば、悪質販売の被害も防止。					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①都留市内、設置率及び参加希望調査 住警器の設置希望等のアンケート調査を自治会等へ依頼する。				調査	→	→	→
②市民に対しての住警器の共同購入募集 市役所広報、HP、自治会回覧板等を利用し、市民に対して必要性を啓発するとともに、共同購入を募る。					実施	→	→
③住警器を各戸に設置 設置の方法・場所を指導した上で、原則として購入者自身で設置し、高齢者世帯等への取付けについては、近所や協力団体等に協力を要請する。					実施	→	→
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
設置率の向上				68%	70%	71%	72%
⇒実際の達成度				69%	80%	82%	84%

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①都留市内、設置率及び参加希望調査	調査	設置率・点検実施率の調査実施済み			A
②市民に対しての住警器の共同購入募集	実施	代替施策として、「令和4年度住警器等配布モデル事業」に義秀稲荷社及びさんちょう商店街で応募し、モデル地区に選定された。			B
③住警器を各戸に設置	実施	10月上旬に上記事業で配付されている住宅用火災警報器(100個)を高齢者世帯等に配付・設置した。			A
次年度以降の方向性	設置率は2.0%上昇した。 年度末の設置率調査に向けて、更なる設置率・点検実施率の向上を図るため、継続した広報活動を実施する。				
令和4年度目標	72%	令和4年度実績	84%	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	87.5

・プランの内容

34	実施項目	CATVによる積極的な情報提供				継続
担当課		総務課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・年間を通じた計画的な動画放映とスライド放送により、行政情報を積極的に発信し、市民サービスの向上に繋がります。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①年間放映計画の策定 積極的な活用を目的に年間放映計画を策定する。			調査	→	→	→
②市民への周知 効果的な周知方法などを検討し、周知を図る。			実施	→	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
都留CATV放映番組数(番組件数/年間)			16件	18件	20件	22件
⇒実際の達成度			20件	28件	29件	34件

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①年間放映計画の策定	調査	年度当初に各課に予定を照会し、年間放映計画をCATVに報告した。新型コロナウイルス感染症に対応するため、放送の可否について確認を行っている。			A
②市民への周知	実施	広報にて毎月の放映予定を掲載。特番等については広報やホームページ、ソーシャルメディア等を通じて周知を行った。			A
次年度以降の方向性	今後も放映計画の進捗管理を行い、協力体制のもと積極的に情報を発信していく。また、新型コロナウイルス感染症及びワクチン接種関連の情報が縮小されることから、再開する行事、イベント及び必要性の高い情報を提供・発信できるよう連携していきたい。				
令和4年度目標	22件	令和4年度実績	34件	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	100

・プランの内容

35	実施項目	学校の教育力の向上に向けた給食費公会計化の推進				新規	
担当課		学校教育課		関係課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・県内他市町村の動向も踏まえ、長時間勤務が常態化している教職員の働き方改革を推進するため、業務の負担軽減対策として給食費の公会計化及び学校給食費の徴収・管理業務を市に移管し、教員の業務軽減を図ります。					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①学校徴収金の調査 市内小中学校の学校徴収金の種類等を把握する。				情報収集			
②公会計の導入に向けての決定 ①の調査などを踏まえ、メリット・デメリットを整理したうえで、教育委員会において給食費の公会計及び学校給食費の徴収管理業務の導入を決定する。					内容協議 方向性決定		
③給食費公営化に係る体制づくり 公会計化におけるシステムの導入などの環境整備と組織体制の整備を行い、保護者への周知などを経て運用を開始する。				情報収集	環境整備 保護者周知	運用開始	→
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
教員の業務負担軽減				-	-	-	実施
⇒実際の達成度				-	-	-	実施

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①学校徴収金の調査					
②公会計の導入に向けての決定					
③給食費公営化に係る体制づくり	運用開始	4月1日より運用開始。口座情報、児童手当、就学援助等の必要データの入力。			A
次年度以降の方向性	児童生徒の学校給食費の無償化の方向性が示され、学校給食費の徴収は前年度までの滞納者と教職員等のみが対象となりことから、徴収事務体制について検討する。				
令和4年度目標	実施	令和4年度実績	実施	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	100

・プランの内容

36	実施項目	不登校児童生徒等の社会的自立に向けた支援の充実				新規
担当課		学校教育課	関係課	健康子育て課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・依然として学校における問題行動や不登校問題の解決、対応が求められる中、市運営の適応指導教室を設置し、不登校児童生徒の早期対応、引きこもり等の深刻な不登校にも対応できるきめ細かい体制づくりを目指します。 ・県運営で行っていたものを同じように継続運営するのではなく、市独自の運営となったことで、近隣市町村との連携、設置場所、設置数等の検討を踏まえより利用者が利用しやすい環境、社会的自立に向けた支援の充実を目指します。 ・不登校者が引きこもりの重症化などに繋がらないよう寄り添ったケアができるよう努めます。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①実態調査 現在、都留こすもす教室を利用している児童生徒の実態調査などの状況を把握及び近隣市町村の設置状況調査を行い、適切な機能等、運営にあたり必要な準備、情報の収集を行う。 また必要があれば、利用条件等の変更を行う。			調査準備			
②都留市適応指導教室「仮称 スマイル」運営 調査に基づき、都留こすもす教室を引き継ぐ形とし、市独自の特色をもち運営・再登校へ繋げるきっかけづくりができるよう運営を行う。			準備	運営開始	→	→
③市内小中学校へ周知 場所等の変更はないものの新規運営となるので、利用促進も踏まえプリントの配布などを行い、周知活動に努める。			周知活動	→	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
計画及び運営の開始(開始時期)			-	運営開始	運営	運営
⇒実際の達成度			-	運営開始	運営	運営

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①実態調査					
②都留市適応指導教室「仮称 スマイル」運営	運営開始	教育研修センターと連携し、不登校に陥っている児童・生徒にスマイル教室を案内するなど早期に学校復帰できるよう活動している。また入室児童生徒のなかには再登校に繋がったケースもあり、引きこもりの重症化にならないよう寄り添った支援に努めていきたい。			A
③市内小中学校へ周知	周知活動	教育研修センター教育相談員が学校巡回訪問時等に案内するとともに、家庭訪問時に必要な児童・生徒に案内している。			A
次年度以降の方向性	令和4年度より教育研修センター内に不登校などの実態調査や分析・研究を行う生徒指導研究委員会を設置し、専門的な相談・支援を受けられていない児童生徒への支援策や不登校児童生徒と学校が関わりを持ち続けられるような体制づくり等を検討する。				
令和4年度目標	運営	令和4年度実績	運営	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	83.333

・プランの内容

37	実施項目	期日前投票所の増設による利便性の向上				継続
担当課		選挙管理委員会	関係課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・期日前投票所の増設の対象となる地区を選定し、設置期間や投票時間を検討します。 ・対象となる投票区の自治会等と協議を行います。 ・期日前投票所の増設に係る投票所の体制や事務手順などを確認します。 ・令和4年度までに3か所の期日前投票所を設置します。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①期日前投票所設置場所の検討 期日前投票所の設置場所を検討し、選挙管理委員会会議で検討する。			協議 検討			
②対象となる投票区の自治会等と協議 投票所の再編成と合わせて、対象となる期日前投票所が所在する自治会等と協議する。			協議			
③事務手順及び処理の確認 増設する期日前投票所についての周知方法や投票事務の体制を確立する。			内容 確認			
④期日前投票所の設置 ①～③を踏まえ、期日前投票所を増設する。				設置	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
期日前投票所数(種類数累計)			2箇所	3箇所	3箇所	3箇所
⇒実際の達成度			2箇所	3箇所	3箇所	3箇所

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①期日前投票所設置場所の検討					
②対象となる投票区の自治会等と協議					
③事務手順及び処理の確認					
④期日前投票所の設置	設置	7月の参院選において、3箇所設置した。			A
次年度以降の方向性	知事選においても、本庁舎1階、都留文科大学、高畑自治会館に設置する。				
令和4年度目標	3箇所	令和4年度実績	3箇所	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	75

・プランの内容

38	実施項目	投票区の再編成による効率化				継続
担当課		選挙管理委員会	関係課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・投票事務の効率化及び投票所運営に係る経費の適正化を目的として、投票区の再編成を行います。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①対象となる投票区の自治会等への説明 対象となる投票区には臨時期日前投票所の設置等の代替案を提示するとともに、投票所が変更となる自治会等には十分な説明を行う。			協議実施			
②再編成を行う際の事務処理・市民への周知 投票事務の体制を確立し、投票所が変更となる市民へは広報や自治会の回覧板等により周知する。			内容確認	実施	→	→
③投票区の再編成 投票区の再編成を行い、選挙事務に誤りのないように適切に実施する。				実施	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
投票区数(箇所)			18箇所	17箇所	17箇所	17箇所
⇒実際の達成度			18箇所	17箇所	17箇所	17箇所

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①対象となる投票区の自治会等への説明					
②再編成を行う際の事務処理・市民への周知	実施	参院選、知事選の際に市広報に掲載。			A
③投票区の再編成	実施	選挙事務取扱規程改正済み			B
次年度以降の方向性	今後も17投票区で実施する。				
令和4年度目標	17箇所	令和4年度実績	17箇所	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	66.667

・プランの内容

39	実施項目	公共施設個別施設計画の策定				新規
担当課		企画課	関係課	施設所管課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・庁内WG等により、平成26年作成の公共施設白書(施設カルテ)を最新情報に更新し、施設の基本情報、利用状況、建物劣化度調査などを踏まえ、メンテナンスサイクルの核となる施設毎の個別施設計画を策定し、施設の具体的な方向性(複合化・集約化、廃止・撤去等)を決定し、その実施時期を示します。 ・必要な市民サービスは維持した施設の有効活用策を検討する中で、施設の数や施設総量、トータルコストを縮減する数値目標を設定し、令和3年度までに公共施設等総合管理計画の改訂を行います。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①施設カルテの作成・劣化調査実施 簡易施設劣化度調査を実施したうえ、施設の基本情報、利用状況調査等を記載した公共施設白書の改訂又は新たに施設カルテを作成する。			データ収集	劣化度調査施設カルテの作成	随時見直し	→
②個別施設計画の記載内容検討・計画策定 数値目標(総量の削減等)を設定し、実施時期を明確にした個別施設計画を策定し、戦略的な維持管理・更新を行う。			検討	→ 数値目標決定 計画策定	計画実行	→
③公共施設等総合管理計画改訂 個別施設計画の内容を反映し、国から要請がある追加項目(中長期的な維持管理・更新費用)を追加するため改訂を行う。			更新費用 データ収集	更新費用 算出	計画改訂	計画実行
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
個別施設計画の策定、公共施設統合管理計画の改訂			-	個別施設 計画策定	公共施設等 総合管理 計画改訂	-
⇒実際の達成度			-	個別施設 計画策定	公共施設等総合 管理 計画改訂	計画実行

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①施設カルテの作成・劣化調査実施	随時見直し	今回の見直しは特段なし			A
②個別施設計画の記載内容検討・計画策定	計画実行	計画を進めている			A
③公共施設等総合管理計画改訂	計画実行	計画を進めている			A
次年度以降の方向性	今後も施設のあり方について各種計画に基づき関係部局と連携の上、施設整備や整理を図っていく。				
令和4年度目標	-	令和4年度実績	計画実行	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	100

・プランの内容

40	実施項目	市営住宅の有効活用				新規
担当課		建設課	関係課			
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・新婚・子育て世帯の助成金制度が令和元年度から開始されたため、助成金の周知を行い、新規入居者数の向上を目指します。 ・住民ニーズ・施策の効果を検証し、住宅管理戸数の集約化及び合理化の検討、戦略的な維持管理・更新を行うために、長寿命化計画を策定します。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①新規入居者数の向上 新婚・子育て世帯の助成金制度などの施策の周知を行い、新規入居者数の向上を目指す。施策の効果検証を行う。			周知・効果検証	→	効果検証	施策の見直し
②市営住宅の有効活用・用途廃止等検討 施策の効果・住民のニーズを踏まえ、戦略的な維持管理・更新を行うために、長寿命化計画を策定する。			分析	→	長寿命化計画(案)策定	長寿命化計画策定
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
新規入居件数(件数/年)			65件	65件	65件	65件
⇒実際の達成度			30件	49件	41件	40件

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①新規入居者数の向上	施策の見直し	新婚・子育て世帯助成金制度は継続する方針であり、周知方法の更なる強化を実施する予定(CATV・移住定住イベント等でのPR等)			B
②市営住宅の有効活用・用途廃止等検討	長寿命化計画策定	都留市営住宅等長寿命化計画を改定するため、業務委託契約を行い長寿命化計画策定指針(国交省)に基づき策定した。以後10年の計画期間であるが、30年間の長期間の方針についても盛り込んだ。			A
次年度以降の方向性	入居率をさらに向上させるため、新婚・子育て世帯への助成金制度の周知に努める。また、入居手続きが迅速に行えるよう退去後の修繕を迅速に行う。				
令和4年度目標	65件	令和4年度実績	40件	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	66.667

・プランの内容

41	実施項目	市有財産の有効活用による財源確保				新規
担当課		財務課	関係課	未利用市有地所管課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・現状調査を実施する中で資産の洗出しを行い、未利用土地の有効活用を検討した上で不要な土地について、面積が小さい物件は隣接地所有者への売却、接道がない物件は進入路の確保などの処分等を検討します。ホームページ等に掲載し、貸付及び売却など市有財産の有効活用を図ります。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①現状調査及び未利用土地の洗出し 各課に対し未利用地の活用方法の調査を行う。			調査	→	→	→
②未利用土地の有効活用の検討 民間事業者等が利用希望している土地等の情報収集活動及び、プロジェクト等検討を行う。			検討	→	→	→
③ホームページ等に掲載 調査に基づき、ホームページ等により公募を行う。				掲載	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
売却及び貸付の実施件数(年間の売却または貸付件数)			1件	2件	2件	2件
⇒実際の達成度			1件	2件	0件	2件

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①現状調査及び未利用土地の洗出し	調査	令和2年度洗い出しを行ったリストを引き続き使用			A
②未利用土地の有効活用の検討	検討	山梨県宅地建物取引業協会など民間事業者への情報提供を検討			B
③ホームページ等に掲載	掲載	市ホームページへ売却可能土地の掲載中。			B
次年度以降の方向性	民間事業者との情報提供を行い、未利用地の有効活用できる体制の確保に取り組んでいく。				
令和4年度目標	2件	令和4年度実績	2件	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	75

・プランの内容

42	実施 項目	SOHO及びテレワークセンターの運用見直し				新規	
担 当 課		産業課		関 係 課			
取組内容 (令和4年度ま でに実施する 内容)		・使用料等を見直しのうえ、一体の施設として新運用基準を作成し、使用料金の見直しを実施し、貸出しを行います。					
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①新運用基準の作成及び新基準による運用 使用料の算定基準を見直し及び事業者への支援策、経過措置などの検討を行った上で新運用基準を作成し、貸出を行う。				使用料算定 データ収集	新基準 案作成	実施	→
(KPI)数値目標・実施目標				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
新運用基準実施後の稼働率の上昇(使用部屋数)				3部屋	4部屋	5部屋	6部屋
⇒実際の達成度				3部屋	2部屋	4部屋	3部屋

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①新運用基準の作成及び新基準による運用	実施	令和3年3月に新運用基準を作成し、令和3年度から新基準による運用を開始し、新たに入居する者から適用している。			A
次年度以降の方向性	都留市公共施設個別施設計画において、新町別館は令和7年度末までに解体する計画であることから、使用者に対し行政財産使用許可を行う際には、使用期間について、期間中に都留市公共施設個別施設計画に基づき、新町別館の解体が決定した時は、解体年度の前年度末をもって使用期間を終了する旨を明記する。				
令和4年度目標	6部屋	令和4年度実績	3部屋	KPI評価	B
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	75

・プランの内容

43	実施項目	公民連携の推進				継続
担当課		企画課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・公共施設の新規計画案が挙げた場合には、賃貸借、PFI、指定管理者制度等の多様な公民連携(PPP)手法の導入を検討する仕組みを整えます。 ・公共施設マネジメントにおける進捗管理や長期総合計画の実施計画に計上する際の協議の中で、導入可能事業、及び施設があるかなどの照会を毎年行い、漏れないようした上で民間活力の導入の検討を行います。 ・国や先進事例の動向等を把握し、民間活力等の公民連携(PPP)手法について、全庁的に周知するため、セミナーや研修会を実施します。また、関係機関で実施している研修会などを積極的に周知します。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①公共施設における公民連携の検討機会の創出 毎年度策定する長期総合計画実施計画の検討段階で、公民連携の手法が導入できるかどうか検討する仕組みを構築し、可能な限り、新設する公共施設には公民連携の手法を取り入れる。			仕組み構築	実施	→	→
②研修会・セミナーの実施 国や先進事例の動向等を把握し、①の検討がスムーズに出来るよう外部講師による研修会を実施する。			情報収集	実施	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
公民連携に関する研修等開催数(回／年)			-	1回	1回	1回
⇒実際の達成度			-	1回	1回	1回

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①公共施設における公民連携の検討機会の創出	実施	次年度行財政改革に官民連携の推進や公共施設活用に関する計画を記載			A
②研修会・セミナーの実施	実施	廃校施設の民間活用について、情報発信を行い、参加した。			A
次年度以降の方向性	官民連携の推進として後期プランにも指標を設定しているため、今後も関係部局と連携し、機会の創出について適宜情報発信を行う。				
令和4年度目標	1回	令和4年度実績	1回	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	100

・プランの内容

44	実施項目	光熱費削減及び節電対策				継続
担当課		財務課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・エコチューニングにより、電気使用状況を分析し、軽微な投資で可能となる削減対策を含め、設備や運用の改善を行います。 ・エコチューニング導入後に効果の検証や新たな手法の検討により、更なる改善運用や削減対策を実施します。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①エコチューニングの実施 エコチューニング実施にあたり、手法等検討調査を行い、実施する。			調査	実施	→	→
②設備改善及び運用 エコチューニングの効果検証により、改善を行い、運用を随時行う。					改善運用	→
③エコチューニングの検証 実施及び改善運用によって得られた情報を基に更なる効率化、改善化に向けた方法を検討する。						検証
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①市長部局年間使用量(MWh/年)			1,730MWh	1,677MWh	1,623MWh	1,593MWh
⇒実際の達成度			1,645MWh	1,677MWh	1,632MWh	1,622MWh
②教育委員会年間使用量(MWh/年)			1,822MWh	1,778MWh	1,735MWh	1,707MWh
⇒実際の達成度			2,277MWh	1,778MWh	1,630MWh	2,090MWh
③消防年間使用量(MWh/年)			298MWh	289MWh	280MWh	276MWh
⇒実際の達成度			301MWh	289MWh	289MWh	285MWh
④病院年間使用量(MWh/年)			2,448MWh	2,419MWh	2,389MWh	2,352MWh
⇒実際の達成度			2,252MWh	2,419MWh	2,670MWh	2,780MWh
(参考)水力発電量(MWh/年)			-	-	-	-
⇒実際の達成度			-	-	-	

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①エコチューニングの実施	実施	令和2年度、業者と協議をし、大規模改修を行わないとエコチューニングによる削減は見込めないとのことであった。			B
②設備改善及び運用	改善運用	エアコン等との入れ替え計画を検討し、設備の改善を行っていく。			C
③エコチューニングの検証	検証				
次年度以降の方向性		エアコン等との入れ替え計画を検討し、設備の改善を行っていく。			
令和4年度目標①	1,593MWh	令和4年度実績予定	1,622MWh	KPI評価	C
令和4年度目標②	1,707MWh	令和4年度実績予定	2,090MWh	KPI評価	C
令和4年度目標③	276MWh	令和4年度実績予定	285MWh	KPI評価	C
令和4年度目標④	2,352MWh	令和4年度実績予定	2,780MWh	KPI評価	C
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	8.3333

・プランの内容

45	実施項目	公共施設の照明LED化				継続
担当課		財務課	関係課	施設所管課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・公共施設のLED化は、より詳細な電気料比較、ランニング費用等のコスト比較を行う中で導入を進め、経費削減に取り組めます。 ・いきいきプラザ都留、消防署は令和3年までに施設を整備します。 ・導入可能な施設の調査を施設管理者に依頼し、導入の検討を行います。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①施設へのLEDの導入 現在、計画されている、いきいきプラザ都留と消防署について整備を進める。			導入	→	→	
②導入可能な施設の検討 LED導入計画の終わる令和3年度に導入規模の検討や新規導入施設の検討など、調査を行い計画方針を策定する。			調査	計画策定		
③導入可能な施設の整備 計画方針に沿って施設整備を行う。					実施	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
照明LED化50%以上の施設数(累計施設件数)			1件	1件	3件	4件
⇒実際の達成度			1件	2件	3件	5件

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①施設へのLEDの導入	導入	各施設管理者の計画に則り、整備を進めている。			A
②導入可能な施設の検討					
③導入可能な施設の整備	実施	公共施設の管理者と協議を行い、個別施設計画を踏まえ、長寿命化及びLED化の計画を行う予定。			B
次年度以降の方向性	引き続き、LED導入に向けて働きかけを行う				
令和4年度目標	4件	令和4年度実績	5件	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	83.333

・プランの内容

46	実施項目	備品の適正管理と効率的活用				継続
担当課		財務課	関係課	全課		
取組内容 (令和4年度までに実施する内容)		・各課の備品一覧の中から貸出可能備品を抽出し、グループウェアに登録して活用し、備品の有効活用と歳出(備品購入費)を抑制します。 ・適正に備品管理を行う観点から、不要物品について情報の共有化を図り、必要に応じ所管替えを行い、不要となった物品が生じた場合も有効活用できないか検討します。				
年度別計画(数値目標を達成するための工程・内容)			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
①共有備品に関わる調査 共有化可能な備品を洗い出すため各課に照会、調査を行う。			調査	→	→	→
②共有化備品の登録 照会、調査に基づき各課との協議を行い、共有化登録が可能なものについて随時登録を行う。			登録	→	→	→
(KPI)数値目標・実施目標			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
共有化登録備品数(累計数)			9件	11件	13件	15件
⇒実際の達成度			11件	11件	13件	15件

・取組状況(令和4年度)

年度別計画	令和4年度				
	計画	実施状況・主な取組内容			内容評価
①共有備品に関わる調査	導入	当初において共有できる備品の希望は無かった、来年度備品要望と併せて引き続き、調査を行う。			B
②共有化備品の登録	登録	共有化可能な物品が見つかり次第、随時登録を行う。			A
次年度以降の方向性	共有化可能な物品が見つかり次第、随時登録を行う。				
令和4年度目標	15件	令和4年度実績	15件	KPI評価	A
【内容評価(進捗度)】 A:計画通り B:実施に遅れ C:未着手 【KPI評価(達成度)】 A:目標を上回る達成 B:達成 C:未達成 【総合評価(平均値)】 内容評価及び数値評価の平均値(自動算出) (A:100点 B:50点 C:0点)				総合評価	83.333